

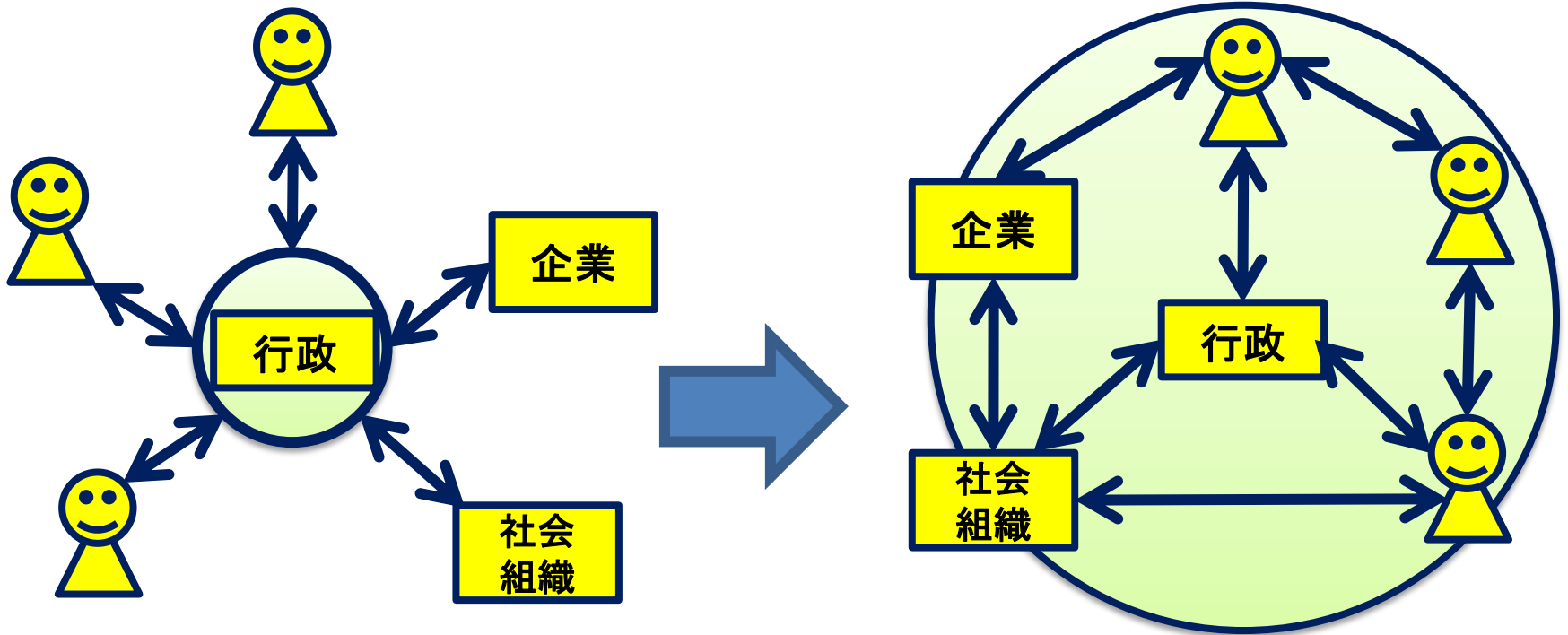


オープンデータを活用した コミュニティ形成への取組み事例

庄司昌彦 (Masahiko Shoji)

国際大学GLOCOM / Open Knowledge Foundation 日本グループ

地域の資源を総動員し、 地域の課題を自ら解決していく社会へ



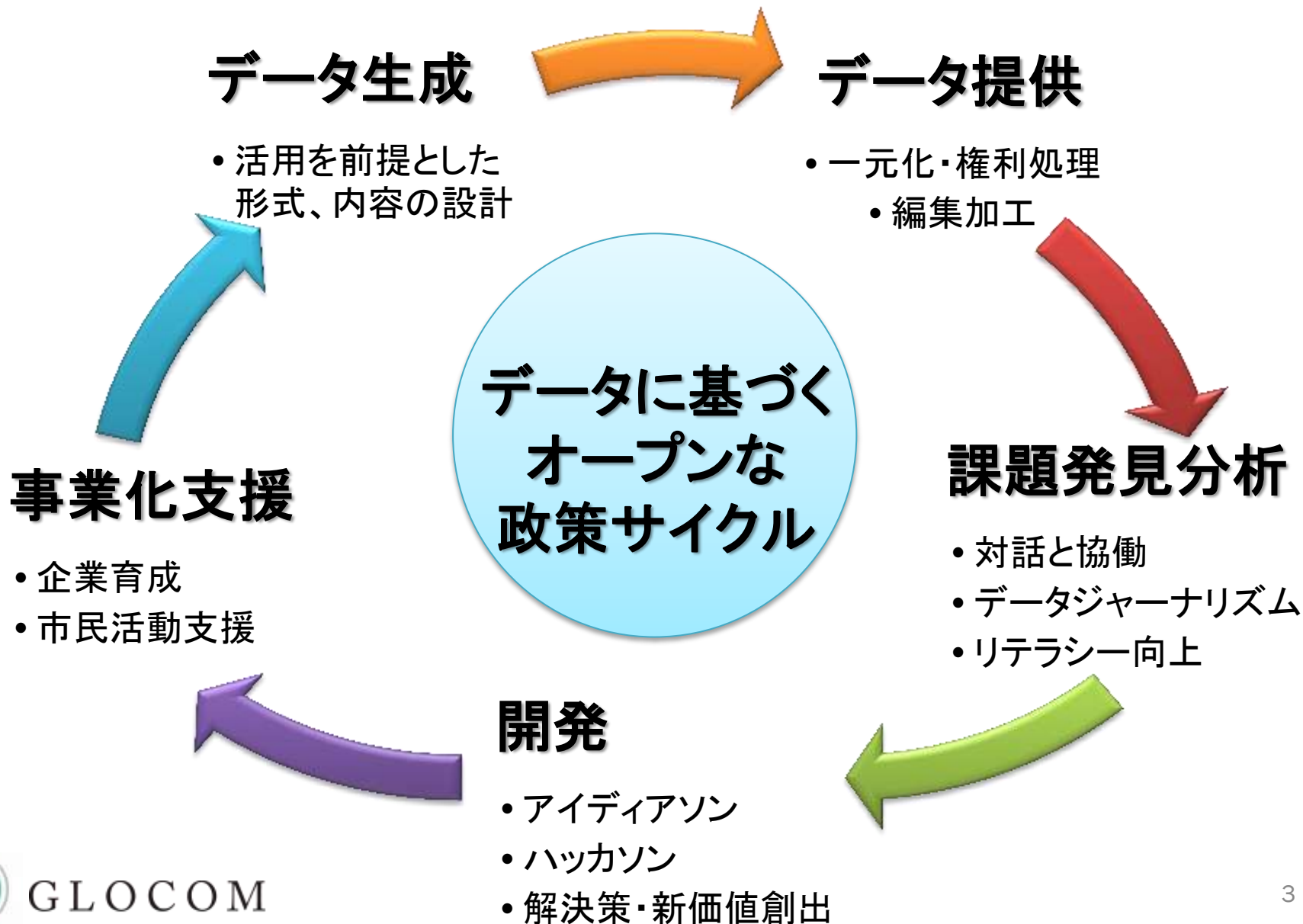
「透明性・参加・協働」 米国 オバマ大統領 2009年 OpenGov覚書

「プラットフォームとしての政府」 ティム・オライリー 2009年
「Do It Ourselves」

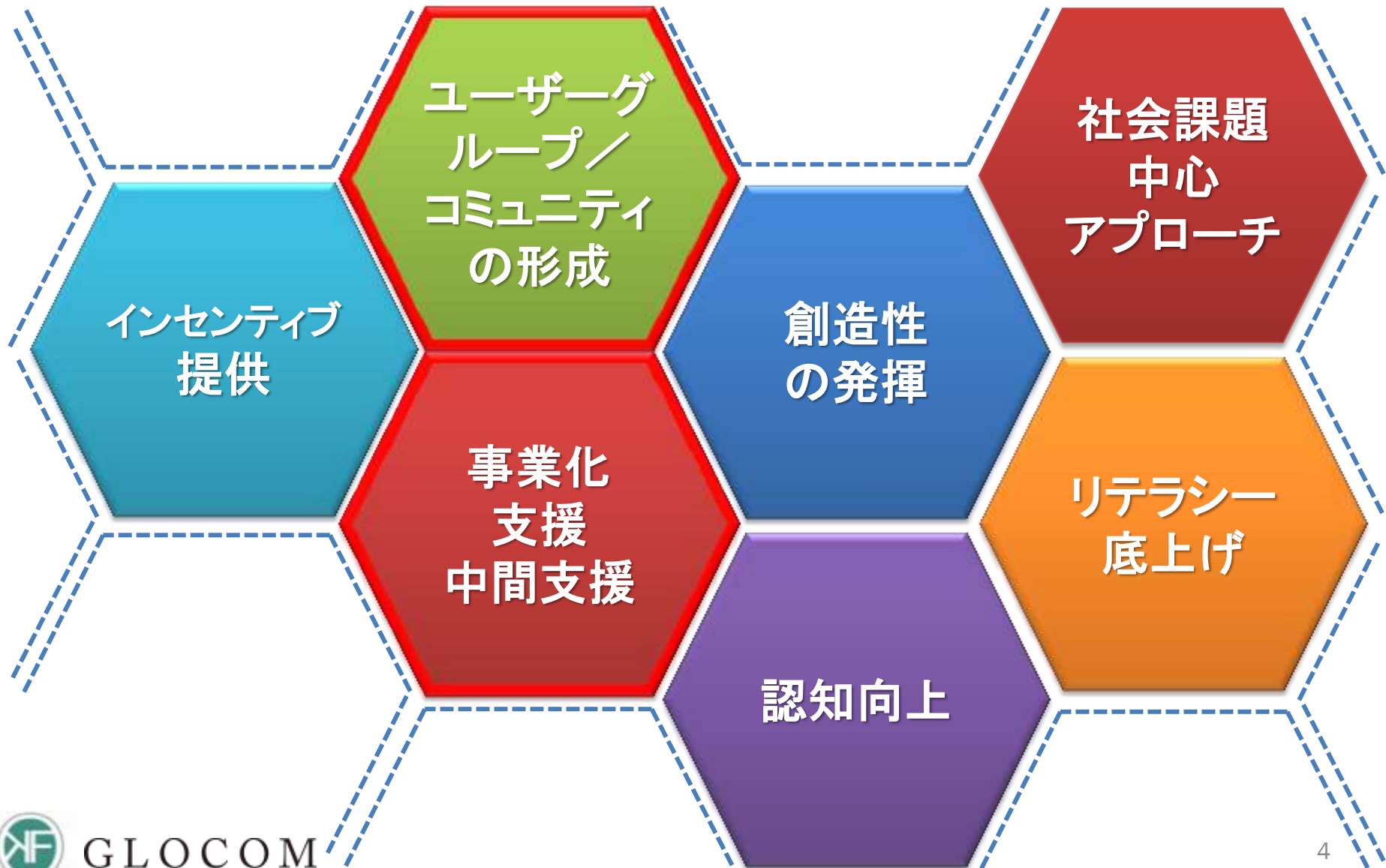
「大きな社会」 英国 キャメロン首相2009年 演説

「新しい公共」 日本 鳩山由紀夫首相 2010年 施政方針演説

データに基づくオープンな政策サイクル



利活用・普及に重要な要素



国際大学GLOCOMの取組み

日時	内容
2009/10/20	GLOCOMフォーラム「ICT、社会変革、オープンなネット参加 ～オバマ政権の構想と日本の可能性～」
2012/03/10	震災復興支援サービス大賞【協賛】GLOCOM賞「自動車・通行実績情報マップ(Google)」
2012/03/22	コロキウム「オープンデータに関する欧州最新動向と日本における可能性」
2012/05/31	シンポジウム「オープンデータが拓く未来 ～動き出した日本の公共データ活用～」
2012/06/09	オープンデータ活用アイデアソン ～ハッカーと起こす社会イノベーション
2012/06/30	オープンデータ活用ハッカソン(～2012/07/01)
2012/07/28	データジャーナリズム実践 データから社会問題を発見する(アイデアソン)
2012/07/29	オープンデータのライセンス:ODbLの背景と内容(勉強会)
2012/09/01	データジャーナリズム実践第2弾 データ発見ワークショップ
2012/12/01	気象データアイデアソン・ハッカソン【後援】
2013/01/19	高齢社会アイデアソン
2013/02/02	高齢社会ハッカソン
その他	地方自治体や企業への情報提供、欧米での調査・情報交換、受託研究等複数の研究員がOpen Knowledge Foundation日本グループに参画。

オープンデータ活用 アイディアソン／ハッカソン

- 2回に分けて開催
 - 3週間でリサーチ等が進む
- 参加者：約30名
- 社会起業家、行政など参加者の多様性を重視
- 関係構築と対話 (Future Session) に時間をかけることで深い「気づき」
- 7つのプロトタイプを制作



テーマ

- 税金はどこへ行った(最優秀プロジェクト)
- 復興メーター
- CKAN日本語化プロジェクト
- みどりマップ
- みんなの地図帳(子供につくれる社会科マップ)
- LocalWiki日本語化プロジェクト
- メンターバンク

WHERE DOES MY MONEY GO? 税金はどこへ行った?

あなたの税金がどこで使われているかをお示しします

[The Daily Bread](#)

[About](#)

[Data Source](#)

[Core Team](#)

[Contact](#)

あなたの世帯タイプは?



単身世帯



扶養有り

年収

¥4,000,000

あなたの年間収入を選んでください



あなたの横浜市税(年間)

¥220,200

あなたの市税は、1日当たり、どこで、いくら使われているか?

健康福祉



¥388.92

子育て・教育



¥57.64

経済・観光



¥47.51

街づくり



¥51.80

環境



¥23.46

市民



¥12.90

交通・水道



¥8.80

政策



¥5.67

資源循環



¥4.64

消防



¥1.93

Where Does My Money Go? (日本語版 ver.1.0.)は、イギリスの Open Knowledge Foundation が開発した Where Does My Money Go? (英語版) をベースに開発されています。使われているデータは横浜市財政局財政課が作成している平成24年度一般会計予算のデータをもとにしています。Where Does My Money Go? プロジェクトは、公共データのオープン化を進める有志に支えられています。

- [Where Does My Money Go?](#)
- [OpenSpending](#)
- [TheDataHub](#)
- [OKFN Labs](#)

- [Core team](#)
- [Data sources used on this site](#)
- [Code and making your own](#)

All content, code and data is openly licensed in accordance with the open definition.

[OPEN DATA](#)



JCEJ×GLOCOM データジャーナリズム実践 データから社会問題を発見する（アイディアソン）

- 日本ジャーナリスト教育センターと共催
- 参加者：約40名
- プログラム
 - 「オープンデータについて」
 - 「データジャーナリズムの最先端（データジャーナリズムアワード事例から）」
- 成果
 - Data Journalism Award 応募を目指すアイデア8点

テーマ

データから見るクラブとクラブ風営法問題

原発補助金漬けの自治体は脱原発についていけるのか？

浪速の無灯火自転車をなくそう

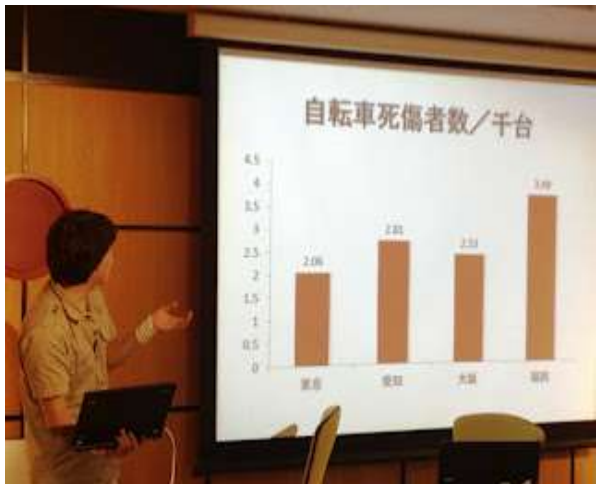
東京都幸せ向上プロジェクト

電動アシスト自転車のデータ公開を！

復興予算は必要なところで使われているか～復興予算の流れを見せる～

知られざる保育所格差-貧困と子育て環境の負のスパイラル-

いじめをなくそう！ Hack Against Ijime



欲しいデータ

- ・市町村別、地域毎の保有台数(県警・警視庁による訪記登録データ)
 - 登録時に電動アシスト自転車であるという区分も明確にして登録できないか?
 - 町村の登録数のデータは市町村毎に保有しているはず

→自分の住む地域の実態が明確になる



データ駆動調査推進部門
 「文のみの保有所格差」
 — 自治体間で格差の要因を探る —
 地域により保有所格差が存在しているが、その格差は、所得格差と連動している?
 使用データ
 ・保有所別人口数 (自治体別別)
 ・年齢別人口 (同上)
 県北の圏外を世帯収入、失業率

地域(市町村)の中心の中
 完全件数や学校などの組み合わせを可視化
 地域を可視化

想定ユーザ
 ・自治体関係
 ・関係機関
 ・研究者
 ・市民

JCEJ×GLOCOM データ発掘キャンプ

テーマ：防災

- 日本ジャーナリスト教育センタ共催
- 参加者:26名
 - ジャーナリストは情報の価値判断に優れる
 - エンジニア不足
- プログラム
 - クロストーク「防災とメディア：防災のために何を伝えるか」
 - ワーク「防災に役立つデータを発見する」
- 2時間で39種類を発掘
- データポータル(CKAN)に登録
- やりっ放しにしない

テーマ	発掘数
一家に一枚！枚避難経路マップ	6件
人の気持ちは冷める	10件
災害による帰宅困難者支援のために	5件
台風をやり過ごすための防災情報	6件
災害弱者を助けよう	12件
合計	39件





Open Knowledge Foundation 日本グループ

EVENTS



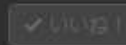
Open Knowledge Foundationローンチパーティ開催報告

11月13日、Open Knowledge Foundation 日本グループ(OKFJ)のローンチパーティが秋葉原のアーチ千代田3331にて開催されました。主催者の想定を上回る、非常に多様な80人の方にお集まりいただき [...]

Facebookページ



Facebookで「Open Knowledge Foundation日本グループ」を見る



あなたが「いいね!」とコメントしています。

244人がOpen Knowledge Foundation日本グループについて「いいね!」とコメントしています。



Takashi



Soichiro



村上 文洋



羽鳥 健太郎



杉浦 祐樹



庄司 盛



Facebookソーシャルプラグイン

SPECIAL



SPECIAL



OKFJの情報をメールで受け取る

Enter your email address:

Subscribe

Delivered by FeedBurner

Open Knowledge Foundation

日本グループ

• ミッションステートメント

- 政府保有データをはじめとする多様なデータの生成・公開・利用を支援する。データの活用を通じて人の行動やシステムの挙動が、より洗練され事実に基づいたものとなり、経済、人々の生活、民主主義、学術研究などの質が向上した社会を実現する。

• 主要事業

- エンジニア、IT企業、行政の担当者、研究者、利用者層に近い人、などが議論したり、互いを知ることができる場の用意
- 関連イベントへの支援（後援・出講・広報協力・開催運営）
- ブログでの情報発信 - 要望をとりまとめた意見表明や提言の発信



OKFN Labs



ckan



datahub
publish, share, discover



Open Knowledge
Foundation



OpenSpending



School
of Data



GLOCOM



横浜オープンデータ ソリューション発展委員会

横浜オープンデータ ソリューション発展委員会

・ 林文子市長（2012年9月）

- これまでも本市は、施設の位置情報や統計データを地図で表したGISやホームページなどを活用しながら、地域の行政サービスや市政の課題などについてわかりやすく情報提供してまいりました。
- 今後、このような実績を生かして、オープンデータの目的である市民サービスの向上や市民参加の推進、市内経済の活性化に沿ってオープンデータの推進について検討していきます。

「横浜から発信！オープンデータと対話で創造する新しい公共」

- ・ 日時：2012年11月24日（土）
- ・ 会場：富士ゼロックスR&Dスクエア
横浜創ラボラトリー
- ・ 参加者：70名以上

PeaTiX

新規登録 / ログイン English

イベントは終了です 横浜オープンデータソリューション発展委員会 キックオフイベント 「横浜から発信！オープンデータと対話で創造する新しい公共」

【11月19日（月）23:59が登録期限となっております】
国や自治体などの行政が保有するデータを、市民や企業、大学研究機関など民間に広く公開することで、多様な主体による共創型で社会にとって、有益なサービスを生み出していこうとするオープンデータの取り組みが、今年になってから本格化し始めています。
国は、この7月に「電子行政オープンデータ戦略」を策定し、内閣府や総務省、経済産業省が中心となり、産官学が共同で、オープンデータを推進させるための様々な取組みを始めています。

横浜市も、自治体として、「オープンデータ推進連携コンソーシアム」の趣旨に賛同し、参画すると共に、行政が所有する社会統計データなどを、企業やNPO、大学研究機関など多様な民間主体と協働的に共有化することで、市民生活の課題を協働で解決するという視点から、オープンデータに取組もうとしています。

そこで、エンジニアやクリエイター、社会起業家、研究者、メディア関係者などが集うことで、横浜におけるオープンデータの取組みを、民間側から促すための組織として「横浜オープンデータソリューション発展委員会」を設立するためのイベントを開催します。
このイベントでは、オープンデータの推進を通して、社会課題の解決に本来で取り組むと考える仲間を募ります。その方法は、ビジネスであっても、研究であっても、市民活動であっても構いません。また年齢や職業、居住地域などは一切、問いません。あなたの「本気」を打ち出すことだけが参加の条件です。

■日時：11月24日【土】13時20分～17時20分（13時開場）
■場所：富士ゼロックス R&Dスクエア お客様教室創ラボラトリー（横浜駅東口より徒歩2分）
<http://www.fujixerox.co.jp/corpamp/profile/location/map062.html>
■参加費：無料

日時 2012/11/24 (土)
13:00 - 17:30 JST

会場 富士ゼロックス R&Dスクエア お客様教室創ラボラトリー

チケット
販売完了
このイベントは終了しています。販売開始の日付に帰ってください。

会場住所
神奈川県横浜市中区みなとみらい6-1-18



「横浜オープンデータソリューション発展委員会」は

・
・

横浜から世界に向けてオープンデータによって
成長・発展する新しい都市の姿を発信します

・

本委員会は、地域の様々な主体による
オープンデータの取組みを支援して行きます

・

市民の豊かな生活のためにオープンデータを
活用した、新たな産業の事例を創出します

オープンデータとは

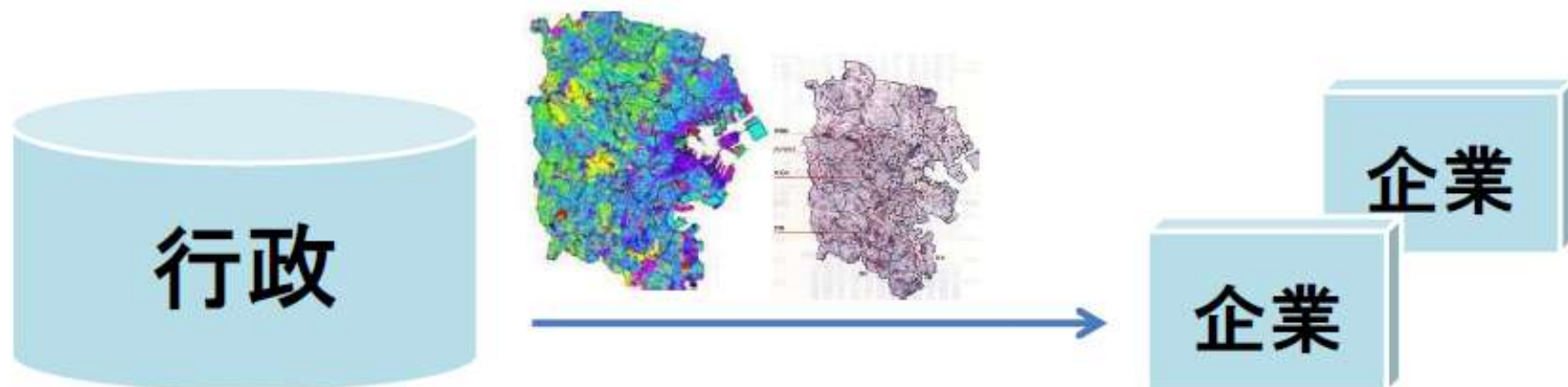
「情報の投資」

・

従来型のお金による投資ではなく
情報社会における[情報投資]により産業を振興し
市民と社会の問題を解決する

オープンデータの意義

「情報投資による産業振興」



例・行政の持つ高齢化地域に関する統計データ

・高齢化問題に関する関連企業/人物データ

- ・事業資産に
- ・マーケティングデータに
- ・協働の契機に
- ・投資コストの削減に

オープンデータの意義

「市民参加による社会課題解決」



・ ようこそモミエルへ

CAFE 4041
大倉山駅周辺をタワシタフェミはんです！！

- 大倉山のほろみつと地野菜が楽しめるカフェ
- 地元アーティストの作品展ボックスショップで販売
- 大倉山ほろみつとほろみつ加工製品の販売

社会貢献事業
はじめての一步
プログラム
<http://socioparty.jp/>

社会貢献とは、個々の社会が抱える課題を、ビジネスの力で解決していくこと。「はじめての一步」プログラムでは、積極的な社会貢献を促している企業にスポットライトを当てています。

様々な社会、多くの課題を抱える地域を、多くの市民が社会課題の解決を求めています。本誌等では、これを「社会のニーズ」と捉え、ビジネスとして取り扱いたい、ビジネスチャンスに変換したいという企業の意向を募集いたします。

企業や消費者の方と、数ヶ月単位で協働し、二番目まで利用のプログラムにのぞかせ、様々な見聞や社会課題を共有、貴社の力を課題解決に活かすこととなる実践的な学習機会を提供いたします。課題解決で社会を「チェンジ」することにより「チャレンジ」して、ビジネスの「チャンス」を掴み取っていきましょう。

横浜の課題を
ビジネスチャンスに
変える！

オープンデータの意義 「新しい公共の実現」

・

YOKOHAMAから世界に発信する新しい都市社会

